JEOL MS Data Sheet



日本電子株式会社 分析機器本部 応用研究グループ お問い合わせ:分析機器販促グループ Tel:(042)528-3340 www.jeol.co.jp

No.112

不活性化溶融シリカチューブ(ガードカラム)を用いた迅速分析例 ②

【はじめに】

原油などの多成分からなる混合物や、高分子化合物などにおいては、分子量分布を有する試料を評価する 場合に平均分子量を用いる。Field desorption (FD) 法及び Field ionization (FI) 法はフラグメンテーションが 起こりにくいソフトなイオン化法であるので、観測されたイオンは殆ど全てが分子イオンである。そのため FI、FD 法にて観測された全てのイオンの質量(*m/z*)と強度から平均分子量を求めることが出来る。タイプ分析では、官 能基や不飽和数などにより化合物をグループ毎に分類し解析を行うことで、平均分子量や多分散度、グルー プ毎の含有成分比等の情報を得ることが容易に可能である。

そこで今回、JMS-T100GC "AccuTOF GC"にて測定が容易に行える<u>キャピラリーGC/FI法</u>と、エミッター昇 電流速度を磁場型質量分析装置使用時に比べて早くすることで測定時間の短縮を試みた<u>高速FD法</u>、さらに不 活性化溶融シリカチューブを用いGC注入口を介してイオン源に導入する手法(以下では本法を<u>ブランクチュー</u> <u>ブ導入/FI法</u>と記す)の3手法にて、軽油の測定を行い、得られた結果を比較検討した。

MSTips No.111ではブランクチューブ導入/FI法について詳細に解説した。本稿では、原油及び石油製品 をブランクチューブ導入/FI法、キャピラリーGC/FI法及びFD法にて得られた結果について紹介する。

【結果及び考察】

試料は市販の灯油、軽油と、中東原産の原油を用いた。Table1に今回検証した測定方法の条件を示す。

	· · · ·		
Blank tube inlet/FI	Capillary GC/FI	FD	
Split(100:1)	Split(500:1)	_	
280	280	_	
_	ZB-5ms, 30 m \times 0.25 mm, 0.25 μm	_	
3~m imes 0.1 mm	—	_	
280 [1]	40[1]-300[1]	_	
—	10	_	
1	1	_	
0.1	1	—	
FI(+)	FI(+)	FD(+)	
5	5	10	
5	5	0-50	
—	—	51.2	
50	50	_	
-10000	-10000	-10000	
280	280	_	
35-800	35-800	35-800	
0.5	0.5	1	
	Blank tube inlet/FI Split(100:1) 280 - 3 m × 0.1mm 280 [1] - 1 0.1 FI(+) 5 5 - 50 -10000 280 35-800 0.5	Blank tube inlet/FI Capillary GC/FI Split(100:1) Split(500:1) 280 280 - ZB-5ms, 30 m × 0.25 mm, 0.25 μ m 3 m × 0.1mm - 280 [1] 40[1]-300[1] - 10 1 1 0.1 1 FI(+) FI(+) 5 5 - - 50 50 -10000 -10000 280 280 35-800 35-800 0.5 0.5	Blank tube inlet/FI Capillary GC/FI FD Split(100:1) Split(500:1) - 280 280 - - ZB-5ms, 30 m × 0.25 mm, 0.25 μ m - 3 m × 0.1mm - - - 10 - - 10 - - 10 - 1 1 - 0.1 1 - FI(+) FI(+) FD(+) 5 5 10 5 5 0-50 - - 51.2 50 50 - -10000 -10000 -10000 280 280 - 35-800 35-800 35-800 0.5 0.5 1

Table 1	Operating	conditions	for l	lank	tuhe	inlet/FI	canillary	GC/FI	and FD
Table 1	operating	conutions	IOI I	Jiann	unc	IIIICUTI,	capillary	GOIL	and PD.

次頁の Fig.1 に各測定方法で TIC を、Fig.2 に質量スペクトルを、Table2 に測定結果の一覧を示す。キャピ

ラリーGC/FI 法ではキャピラリー分離カラムにて成分分離することにより、 各成分を詳細に検証できるものの、 全成分が測定されるまでに、灯油 では約 20 分、軽油では約 25 分、 原油で約 30 分を要している。ブラ ンクチューブ導入/FI 法及び FD 法 は、直接導入法のため成分分離は 一切されない。その反面測定時間 は僅か 1 分と、極めて短時間で測 定を終えることが可能である。

ブランクチューブ導入/FI 法は、 GC 注入口を介した直接導入法であ るため、MSTips No.111 でも述べ たように種々の利点を得た測定が 可能である。例えば FD 法のような 低沸点成分の試料損失・高沸点成 分の強調といったこともなく、 さら に不活性化溶融シリカチューブを 用いる為に、測定時間は短く且つ *m/z* 600 程度までの高沸点成分、 微量成分の測定も容易、といった 特長があった。

含有成分比や平均分子量などを 求める際に用いられるタイプ分析で は、観測された全てのイオンの質 量と強度を用いるために、必ずし も各成分を分離して検出する必要は無い。短時 間で測定を終え、尚且つ FD 法と比較して低沸 点成分の損失が少なく、キャピラリーGC/FI 法と 比較して高沸点成分や微量成分の測定に対して 有効なブランクチューブ導入/FI 法は、石油製品 のタイプ分析において有用であると考えられる。 またブランクチューブ導入/FI 法ではクロマトグラ ムピーク分離やピーク形状の歪み(テーリング、 リーディング)を一切無視した測定が可能な為に、 試料導入量はキャピラリーGC/FI 法に比べて多く



Fig. 1 Comparison of TICs of kerosene, diesel oil and crude oil by using differ methods; (a) kerosene by blank tube inlet/FI. (b) kerosene by capillary GC/FI. (c) kerosene by FD. (d) diesel oil by blank tube inlet/FI. (e) diesel oil by capillary GC/FI. (f) diesel oil by FD. (g) crude oil by blank tube inlet/FI. (h) crude oil by capillary GC/FI. (i) crude oil by FD.



Fig. 2 Comparison of averaged mass spectra of kerosene, diesel oil and crude oil by using differ methods; (A) kerosene by blank tube inlet/FI. (B) kerosene by capillary GC/FI. (C) kerosene by FD. (D) diesel oil by blank tube inlet/FI. (E) diesel oil by capillary GC/FI. (F) diesel oil by FD. (G) crude oil by blank tube inlet/FI. (H) crude oil by capillary GC/FI. (I) crude oil by FD.

Table 2	Summary	of type	analysis	results.
---------	---------	---------	----------	----------

		Blank tube inlet/FI	Capillary GC/FI	FD
Kerocene				
Me	asuring time / min	0.2	18	0.5
M _n		179.2	165.3	348.9
PD		1.04	1.03	1.02
Bas	se peak	C14H30	C13H28	C23H48
Diesel oil				
Me	asuring time / min	0.3	25	0.5
M		282.6	247.6	299.4
PD		1.04	1.04	1.02
Bas	se peak	$C_{22}H_{46}$	$C_{20}H_{42}$	C20H42
Crude oil				
Me	asuring time / min	1.0	>30	0.7
M		365.7	264.6	403.0
PD		1.09	1.10	1.12
Bas	e peak	C23H48	$C_{20}H_{42}$	$C_{20}H_{42}$

n = 3; M_n : number-average molecular weight; PD: polydispersity

することが可能である。そのためイオン化効率の低い FI 法と組み合わせて使用することに適した測定方法であると言える。

【参考文献】

M. Ubukata et al., J. Mass Spectrom. Soc. Jpn., 56, 13-19 (2008).